

特別講演 2

和温療法：患者にとって理想的な治療法

鄭 忠和

鹿児島大学大学院循環器・呼吸器・代謝内科学教授



「和温療法」は演者が平成元年から取り組んできた「温熱療法」を名称変更して発展させたもので、「乾式均等和温室を用いて心身を和ませる温度(60℃)で全身を暖め、深部温度を 1.0 ～1.2℃ 上昇させた後、安楽ベッドで 30 分間の安静保温を加えて和温効果を持続させ、最後に発汗に見合う水分を補給して終了する方法」である。「和温療法」の効果は慢性心不全をはじめ、閉塞性動脈硬化症、慢性疲労症候群、線維筋痛症、膠原病など多彩であることをこれまで明らかにしてきた。その効果発現には遺伝子レベル、分子レベル、細胞レベルでも深く関与し、自律神経や神経体液性因子を是正し、全身の血管機能を改善させて、身心を回復させる。

一般に先進治療(手術・化学療法・放射線治療・移植など)は患者に痛み・我慢・ストレスを与えるが、「和温療法」は患者を和ませるやさしい治療法で、安全で副作用がない。それゆえ患者にとっては理想的な治療法といえる。また対費用効果にも優れ、医療価値(=治療効果 / 費用)が高い。「和温療法」は種々の難治性疾患患者にとって福音であり、21世紀の革新的治療法として期待できる。